

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価

令和8年2月25日

札幌市立信濃小学校

1. 本年度の重点目標

「自分の考えをもち、仲間の考えを受け止め、共によりよくなろうとする子」の育成

2. 本年度の経営方針

- 「し」っかり学習
→仲間とともに学ぶ楽しさ、学んだことを生かすよさ、目標を達成するたくましさ、ICT等による情報活用
- 「な」かよく生活
→自他を思いやる優しさ、自己有用感の高まり、よりよく生活しようとする態度、明るい挨拶と歌声づくり
- 「の」びのび運動
→自ら運動することのよさ、運動に親しむ環境づくり、健康を意識した保健・食育、生活リズムの向上

3. 自己評価結果に対する学校評価

A:よく当てはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:全く当てはまらない

評価項目		自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学ぶ力の育成	『分かる・できる・楽しい授業』の実践	A	本校のテーマである「自分の考えをもち、柔軟に学びを進める子」の実現に向けて授業改善に取り組むため、授業づくりから外部の教員の協力を仰ぎながら、よりよい授業の構築に取り組んだ。今後も継続していきたい。	A	A
	進んで表現する力の育成	B	表現方法として、ノートにまとめたりICTを活用したりして表現するなど、様々な方法を工夫することができた。今後はさらに、学習の中での交流、関わりの在り方を吟味していく。	A	A
	自ら問題を発見し、解決していく能力の育成	B	特に、子どもが自ら課題をもつ場面に焦点を当て、教師主導ではなく、子どもが学習に対して興味・関心をもち、学びたいという原動力を大切に学習づくりに努める。	A	A
学校関係者評価による見解		全体的によい評価になっている。授業の様子を見る機会もあったが、とても楽しい授業だった。高学年の子どもたちも自分の意見をもって授業に臨んでいる。しかし、低学年などに比べると、意欲的な姿が見られなくなってくるということは、何かしらの手だてが必要ではないか。先生方の自己評価は厳しくなっているが、よりよい授業を考えて、一生懸命取り組んでいることは評価してよいと考える。			
豊かな心の育成	集団活動による人間関係の深化、個と集団の高め合い	A	体育発表会等の行事に、どの子どもも意欲的に参加する姿が見られた。今後は人との関わりを大切に、例えば、教師と子ども、子ども同士の他者評価を取り入れ、共に高め合うこと、それを実感することができる場を設定していく。	A	A
	気持ちのこもった挨拶をする子どもの育成	B	子どもが自ら挨拶をすることで、行動力を高めたり、相手意識を高めたりすることに重点を置いてきた。今後はこれまでの活動の見直し、また、子ども発信の取組を増やして、より挨拶の大切さに気付かせていく。	A	A
	児童が主体的に楽しく豊かな学校生活を築くための委員会・クラブ・どんぐり活動の推進	B	児童活動では、常時活動を中心に責任をもって取り組めるよう内容を精査していく。異学年交流も含めて、子どもたちがやりがいや上学年に対する憧れをもてるように、子ども発信のアイデアや新たな取組を創造したり、高学年の活躍が見えるような機会を増やしたりなどして、関わっていく。	A	A

	自分や仲間を大事にし、命を大切に前向きに生きる子の育成	A	子どもの日常の様子や定期的実施するいじめアンケートなどから、いじめの早期発見、早期対応を心掛け、保護者とも連携するなどして、重大な事態の発生は防ぐことができた。今後も、日常からの指導を大切に、そして、1か月に1回のいじめ対策委員会において、情報共有を密にして学校全体で対応できるようにする。	A	A
学校関係者評価による見解		<p>学校行事については、いろいろな機会に見ているが、子どもたちのよい姿をたくさん見ることができている。</p> <p>挨拶については、積極的に挨拶をしている子もいるが、現状、もう少しと感じる子がいるのも確かである。これには、学校だけではなく家庭との連携も必要で、大人が示していくことも大切であると感じる。小学校のうちに、中学校につながる社会性の基盤を作っていってほしい。</p> <p>異学年の交流については、児童会館でも学年の枠を超えて、スムーズに活動したり仲良くしたりしている。学校での活動が生きている表れだと感じる。</p>			
健やかな体の育成	適切な食生活を送ろうとする態度の育成	A	<p>栄養教諭等とは毎日の給食時間に全教室を回り、食指導を行っている。今後も継続して給食指導を充実させ、好き嫌いせず食べるなど、適切な食生活を送り自分の健康を自分で守れるような実践的な態度を養うようにする。</p> <p>また、家庭との連携が欠かせないため、給食便りでの情報発信などで、協力を呼び掛けていく。</p>	A	A
	体力の向上に向けての取組	B	<p>休み時間には、グラウンドや体育館で体を動かして遊ぶことを推奨し子どもが仲間とともに運動する楽しさを実感できた。一部、これらの活動に子ども、保護者から意見があったが、改めて、その目的や意義、本校で大切にしていることなどを丁寧に説明することで、運動機械の充実を目指していきたい。</p>	B	A
学校関係者評価による見解		<p>食生活については、現在の状況を考えると、朝ご飯を食べていない子がいないか気になる。栄養教諭の取組はすばらしいので、改善の方策に書かれている「家庭との連携」を大切に進めてほしい。</p> <p>体力の向上に向けた取組については、学校で取り組んでいることを踏まえると、達成状況が「A」でもよいのではないかと。子どもの基礎体力が落ちている現状を考えると、外遊びをしていること自体、とてもよいことである。冬になると家の中に閉じこもりがちなので、冬も外遊びをしていることは、保護者にとっては肯定的に受け止めていると思う。ぜひ続けて、健康な信濃の子どもたちの伝統を守ってほしい。</p>			
信頼される学校づくり	危機管理体制の充実・強化	A	<p>今年度は災害時の対応などについて、実際に起こりそうな場面を想定して、町内会の力も借りながら、避難訓練を実施した。今後も、今年度同様に、交通安全教室、非行防止教室、ネットモラル教室などの外部講師を招いた講話・講演を取り入れ、地域や保護者の方の協力も得ながら、安全教育を充実させていく。</p>	A	A
	困りがある児童・保護者に対する受容的な対応	B	<p>どの子どもも安心して学校生活を送れるように、子ども一人一人に対する児童理解を図り、丁寧な関わりを心掛けていく。子どもや保護者の困りを担任だけでなく学年や担任外と共有するなど学校組織として対応していく。</p> <p>状況に応じて、スクールカウンセラーや主任児童委員、児童相談所などの外部機関との連携を密にし、早めの動き出しを心掛ける。</p>	B	A
学校関係者評価による見解		<p>今年度、町内会と協力して行った取組は、とてもよかったと考える。町内会としては、特に、防災に関して、学校にぜひ協力したいし、保護者にも広めたいと思う。地域、家庭、学校で連携しながら、来年度も取組を進めていければと思う。</p> <p>困りがある児童、保護者への対応については、肯定的な回答を見ると、かなり数値が高く、達成状況は「A」でもよいのではないかと。保護者と先生方がとてもうまくいっていること、また、先生方が何かあった場合の対応について努力していることが伝わっていると思う。ぜひ、今後もそのような取組を続けてほしい。</p>			